

# 思春期なアダム

さかき傘  
挿絵／天海雪乃

あとみっく文庫／PDF立ち読み版



あとみっく文庫

002

## 藤田陸月

恵殿学園に通うごく普通の少年。しかし右目に謎の力が？



## エンジュ

陸月を守るために現れた少女。身の丈ほどの大剣を操る。



## 伊部草マキナ

陸月の気になるクラスメイト。無口で物静かな少女。



## ルシア

蛇眼を狙う美少年。妖しい色気を持つ。



## 地遊尼ミカ

陸月とエンジュ二人の保護者となる美女。



## 九里空沙耶

陸月のクラスメイトの明るい少女。



## 藤田チアキ

陸月の妹の一人。生意気ざかりの小学生。



「我慢なさい。こんなにエッチなオチンチンなら、すぐ気持ちよくなるから♡」  
「あつ、ああつ、やああああつ、ミカさんつ、待ってつ、待ってつ、待ってえつ」

ニギニギと一本一本の力加減を変えてきた。

五指全体が亀頭を包んでいるだけでも、目の前がショッキング・ピンクに染まるような電撃の嵐なのに。少年は下っ腹に筋肉を浮かせて、刺すように鋭い切なさに悶える。

するとミカは笑みを強めて、

「おかしいなあ、痛いはずなのにオチンチンどんどん大きくなつてくよ？」

「ふあつ、ンあうつ、やああそんなつ、乱暴つ、しないでくださあい……つ」

「ンフフ、声まで感じちやつてるねえ。なあに？ いやがつてるフリしてホントは気持ちいいってこと？ それとも痛いのが気持ちいいのかナ？」

茶目つ気たつぷりに囁きながら、包茎ペニスを的確にいびりぬく。

親指が先つちよの切れ目にあてがわれ、グリグリ按摩あんましてくる。尿道にまで衝撃が伝い、危うく失禁しそうになる睦月だが、幸いその責めはわずかだった。

代わりに先走りをまぶした指を亀頭に戻し、潤滑油にして上下させ始めたのだ。

過保護に育った穂先は、握られただけでヒリヒリするのに、摩擦までされてはたまらなかつた。青い筋の浮いたシャフトが爆ぜそうに膨れ暴れる。

「あはっ、かわいいなもう。可愛いからイジメたくなるのに、イジメるともつと可愛い

顔するんだもん。お姉さん止まらなくなっちゃうよ」

この位置関係が気に入ったらしい。彼を仰向けにして、四つん這いになりまたがりなおすミカ。シーツを握り悶える少年の、シャツ越しの胸に鼻先をつける。

「ん〜〜ッ。いい匂い♡ 男のコの匂いにする」

お日様を吸った少年の肌が、汗に浸されたとき特有の若々しい臭素。たまらない感じで嗅ぎながら、楽しそうに牡棹をすごいた。

「気持ちイイんでしょ睦月君。オチンチンいじられて、もうイッちやいそうなんですよ」

「だめ…:…っ、だめえっ。待ってミカさん、ちよつと待ってえっ」

「ダメじゃないでしょ？ イジメて欲しいんですよ？」

攻める興奮が募ってきたようで、ミカはことさら強く囁いてくる。

わきの下やおへソなど、とくに匂いにする箇所箇所に鼻をうずめては、大きめのお尻をモジモジさせているのが見えた。Tバックの食い込みで慰めているらしい。

「ほらあ、『はい』って言いなさい。オチンチン気持ちいいですって」

Sスっ気全開に赤い目を鋭くして、匂いどころかヌメつく舌で、わきや首筋、顔中の汗まで舐なめてくる。

「言えないの？ はーいって、はーいって言いなさい」

「あああつ、やああああつ」

手つきはさらに大胆になり、雁を擦ったり裏筋をなぞったり、かと思えばソフトに竿部をニギニギしたり。

「やつ、は……。もう……。うああんもうっ、もう……。っ」

まだ自分のされているのが『快感』だという自覚すら薄い中で、お姉さんに支配された少年は、射精に向けてベッドのスプリングを軋きませ出した。

女は手の中で亀頭が膨れるのを感じ、ワイルドな美貌をにんまりさせると、

「もうイキそう？　こらこら、まだダメだよ。もつと可愛い顔見せなさい」

言うこととは裏腹に、肉の果実のように丸く熟した亀頭を揉みこむ。

睦月はもう泣きそうになっていた。刺激が強すぎて、初めてオナニーしたときのようにどうしたら果てられるか掴み辛い。すでに絶頂へ入りかけているのに、どうにも射精まで達しきれなかった。

あまりの切なさにひくんひくん悶えていると、ミカが、

「仕方ないなあ。じゃああと10秒したらイキなさい」

まだ意地悪く笑ったまま、急にシャフトをしごく手つきを、ゆるゆる優しいものにした。

「10、9、8、7……」

「あ……っ、あ……ッ！　は——」

こちらの鈍めの快感はある程度感じやすく、急激に放出へと登りつめていく睦月。

「ふふふふ♡ 6、5お、4……3……」

ラスト5から微妙に遅くなったカウントに焦がれながら、0の瞬間へ向けてしきりに勃起の先端をしゃくりあげる……。が、

「2い……、1……」

「っ……、っ……」

「おっと、10秒追加♡」

「~~~~っっ！」

最後の瞬間に、幹棒を覆っていた手のひらが離れてしまった。

ぎりぎりのところでポイントを外され、睦月は目を白黒させる。しかし支配されきった身体のはうは従順だった。刺激がなくなったことよりむしろ、彼女の許可が下りないせいで、絶頂までイキきれなくなる。

「みつ、ミカさあん……っ」

「ダメダメ♪ ほら行くわよ、10！ きゅーう、はーち」

波が引いたのを見計らって、またむぎゆりと穂先を握り、指を食い込ませてくる。

せりあがったものが下がったりまた上がったり忙しい。少年は快感に苦しんで、敷布団に肘鉄でも入れるように全身を暴れさせた。

それでもミカは容赦せず、絶妙な指使いとともにカウントダウンを続ける。



「ご、お、よ、よん、さ、さ、さ、さ………」

「く、あ、う……あ、う、う、う………」

「2、い、1………。……………」

またそこで指が止まった。うつすらほくそ笑んでいる。

余裕のない睦月の目にも明らかだった、また10まで戻そうとしているのは。

少年はもう彼女の指以外で達せる気がせず、恥も外聞もなくすがりつく。両腕を褐色の細い首に巻きつけ、涙声で叫んだ。

「お願い……っ、ミカさんっ、お願いですから。もう意地悪しないでえっ」  
捨て犬のように弱々しく哀訴の目を向ける。

底意地の悪い魔女の笑みを浮かべていたミカは、さすがにやりすぎたと気づいたらしい。ごめんごめんと苦笑してみせた。

赤ん坊のようにすがつてくる可愛い彼を見てひとまず満足したらしい。またがった肢体を低くしていき、胸と胸を、股と股を、唇と唇をくつつつけて。

「いいよ。イカせてあげるね」

にゅくっ、にゅくっこの短期間に学習した、少年の一番悶えやすい力加減で雁首を、茎胴をしいた。

「つつひ……っ、ひ、は………！」



少年が目を伏せたので、なんとか波は去ったものの、強烈なしこりが残る少女は……。

——ゾロ……オ。

「ひぐ……っ、ひ……、ンンン……っ！」

唯一蛇眼に気づきもせず、探査を続ける機械の攻撃に、悶絶することとなった。

肌をなぞる幾筋もの繊毛……。発情しきった身体の、首を、耳を、わきの下を。感じやすい場所が、余すところなく舐めなぞられていく。

「やめっ、うううう……っ！ わ、わき……やああ背中よわいのおっ」

くすぐったさを何十倍にも煮詰めたような、形容しがたいむず痒さに、エンジュの口から普段は想像もできない弱気な声が出た。

ミカのとぎと同じで全身の細胞に火が走っており、汗腺が開く。

ブラとスパッツの素材がぐにゃりと歪んだ。いかなる物体にも貫けない天の鎧、羽衣<sup>スリーブ</sup>。しかし鹹水という弱点にさらされては、ボディペイントのようなものだった。

(エンジュ……、どうしよう、エンジュが……)

心配になり左目だけ開ける睦月。

——パツン。

「ふあ……っ！」

スポブラのフロントが、ちょうど根元から剥がれてしまうところだった。

真つ白な肉球が二房、ぷるんつと小気味よく弾みながら露になる。

身長は妹チアキより低いくらいなのに、思いのほか女の子なサイズのバストだ。削いだように細いウエストから、勢いよくカーブを描いて持ち上がっている。首にはまだ襟リボンが引つかかったままで、芸術的なラインに卑猥さを添えていた。

綺麗な球形だし、……陥没気味の幼い乳頭は桜色。

状況も忘れて睦月はドキリとしてしまった。と……。

「フフ、なんだかんだでエッチだね、君も♪」

いつの間にかルシアが跪ひざまずいていて、ズボンに手をかけている。ぎよつとする暇もなくベルトがとかれ、ずるんとトランクスごと下ろされてしまう。

口をパクパクさせる睦月を無視して、少年はまろび出た汗臭い部位に、ぼーつと潤んだ視線を向けてきた。さすがにこの状況で勃起こそしていないものの、緊張やエンジュの色っぽい姿を見たことで充血のきざしが見える箇所を。

「ああ……、これが睦月クンの」

ヒンヤリした手のひらが、なんとも愛しそうに玉袋を底から持ち上げてきた。弱点をとらえられて、「やめてよ」の声が小さくしか出ない睦月。

ルシアは構わず童顔をほころばせ、内腿をそつと掃くようにさすつたり、怒張に指を絡めたりしてくる。すでに充血し始めていたそこは、きめ細かくしごかれると、情けなくも

状況を忘れて男の子相手にムクムクと反応し始めてしまった。

「……♥ よかった。ボクが相手でも、興奮してくれるんだね」

心底嬉しそうに言いながら、しっとり濡れた舌が、充血しきっても穂先を隠す包皮に、ニユルりと絡みつく。

「あ……ア、だめ、だめ……」

睦月が焦っているうちにも、エンジユもまたさらなる屈辱に襲われた。

極細ワイヤーが胸乳を狙い出したのだ。白桃に似たなめらかな球形に、無数の糸が巻きつく。

美麗な形がボンレスハムのように歪み、絞りだされたせいで、平らな乳頭ではブクンと小さな乳首が飛び出す。

「はぁんっ」

入念な糸がそこにも食いついた。少女はたまらず、悲鳴とは微妙にトーンのちがう愛らしい吐息をこぼす。ヴヴヴと細かな震動を送られると、華奢な肢体が激しく揺すれ、光沢のある赤髪がざくんざくん波打った。

(エンジユ……)

見てはいけないと睦月はそっぽを向くが、眉根をきつく寄せて恥辱ちじよくに耐える少女の、これ以上ないくらいエロティックな表情は、すでに脳裏のうりに焼きついていた。

「……あは、すごい大きい」

どうしようもない興奮のせいで、急角度を向くペニスの鈴口からはカウパーがあふれ、それがルシアを喜ばせた。裏筋沿いをヌメヌメと淫らにうねる舌がなぞる。

「や、やめて、やめてよ……」

睦月の抵抗は弱かった。

性のための部位を、同性に愛撫されているという状況そのものに、頭の整理が追いついていないのが一点。

そしてなにより、ルシアの態度が、怒気や嫌悪をといた攻撃性を奪う。

口での愛撫はミカにもしてもらったが、ルシアのそれは、まったくちがうもののように思えた。

感じやすいピンクの先つちよにあてる舌は、たつぷりの唾液でカバーしており刺激を最小限に押さえている。それでいて形状を這う舌は、

——チロチロチロチロ……。

「んくつ、うつ、はあうう」

懇切丁寧に雁首のみぞや裏筋など、おうとつのあるフォルムを余すところなく舐り、細かな震動を加えてきた。接触面からはくすぐったさとむず痒さを混ぜこんだような、なんとも言えない感覚が腿の付け根全体に染みこむ。

剥きたての亀頭にはちょうどよい刺激。男同士だからこそその『心得た』舌使いだった。加えて、

「ンンう……。ぶあふ、睦月クン。好き、大好き」

玉袋やありの門渡り、アヌスへと舌を伸ばすとき、ちらちらとこちらを見上げてくる。イタズラっぽさはなりをひそめ、甘えたがる飼犬のような表情だった。

こんな顔で、こんなに愛情たつぷりの奉仕を受けては……。男同士なのに。敵同士なのに。どんな考えが頭を渦巻いても、彼に対してもう嫌悪感を抱けなかった。

「ッ……。くあう……。っ。こ、この——ひあつ」

引つかかったままのリボンを揺らして悶えるエンジユが、また新しく悲鳴をあげる。

太ももをこすりあわせたせいで、スパッツがダメージを受け、張力の切れた素材に穴が空いたのだ。白い太ももや、大切な箇所を守る最後の砦。ピンクのショーツが覗く。

「も……。っ、やだ……。あつ、あつ、そこお……。っ」

蛇眼の力を受けたうえ、ヒクヒク痙攣するくらいシコった乳首を押さえられていては、凜々しい天使も人形に等しかった。むしろ幼い分だけ性感に弱いくらいかもしれない。

「……あは。見てよ睦月クンあの顔、この状況で本気で感じてみたい」

口元をべとべとにしたルシアが愉快そうに笑う。

「恥ずかしくても悔しくても、エッチになるのが止まらないんだね。フフツ、プライドば

「……高いくせに、絶対マゾだよあの女」

「……………エンジュ」

泣きそうになりながら、両手に絡む魔液をふりほどくこともできない睦月の前で、天使を捕食する蜘蛛がさらなるデータを欲しがった。

ワイヤーを垂らす尾殻を、とらえた獲物の背筋に押しつけてきたかと思うと、先端から銀色に光る、針を取り出す。

マチ針のようだった。長さは5センチほどで、逆端に小さなぼつちのついたそれを、

——ぴシュッ。

「……………ツツ！」

「エンジュツツ！」

少女の背中の中央へと打ち込んだ。

体内を調べるつもりか、逆端の印まで、5センチ強が食い込む針。あまりに痛ましい光景に睦月が叫んだ。しかし……、

「か……………う……………。へああああ……………」

ピリピリと凄まじい衝撃に悶えながらも、エンジュの悲鳴には、どこか甘やかなものが感じられる。

「あうっ、ンあっ！ は……………つ。ああああはっ」

針は次々と背骨のラインに沿って打たれていく。そして一本、また一本と刺されるごとに、少女の吐息は妖しく恍惚こうこうの音色を深めていった。

針に犯されるのに対し、『痛い』以外のなにかを覚えているのは明らかだ。わきの下でこちよこちよ織毛が躍るたび。乳房や乳首を絞られるたび、どうしようもなく上向いてしまふ快感曲線の急勾配に、皮膚を刺される痛みすら秘悦にすりかわり出している。

シュツと音がするたび、丸い乳房を波打たせるエンジュ。

普段の凜りんとした彼女とのギャップに睦月は呆然となる。同居人が犯され悶える姿を、黙って見ているなんて、ルシアより遥かに悪趣味な自覚はあるのに、目がそらせない。

「はひ……、い、……いい……、うあああ」

針を発する機兵の尾殻は、脊髄から腰椎まで一直線に針を打ち終え、さらには臀部にまで銃口を向けた。ぐいと吊り下げた身体を前に倒させ、腰へ狙いをつける。

「あ……、ツア……や、やめな……さい。そこは……」

射出口がどこを向いているのか気づくと、エンジュは力の入らない身体でふるふる首を横にふった。

しかし機械に情けはない。プシュツ、パスツとホチキスでも使うよう軽妙な音を立て、マチ針は規則正しく仙骨の中央へ打ち込まれていった。

「かひ……いつ。ひいいいん……」

お尻を突き出す格好のせいで、生地の弱いスパッツが穴の空けられる中央から裂けていく。ショーツ一枚のお尻を剥かれながら、少女は涙目になって訴えた。

勝気な彼女のそんな表情に、残酷ながらぶるりと興奮の震えを起こす睦月。

「あん♥」

喉の奥を亀頭に突きあげられ、ルシアが嬉しそうに呻いた。

唇や糸切り歯で胴の部分をしごきながら、ちゅうちゅうと強く、分泌されたしよっぱい先走りを啜る。尿道が真空状態になったようで、輸精管にまで衝撃が伝った。

興奮との二重奏に、少年は危うく音をあげそうになる。

「ふふ……、んっ、いいよ……。っふ、いっぱい……。あんむ、のませて」

ルシアは敏感に感じ取り、眉を切なそうにぴくつかせながら顔を押しつけてきた。

「あああつ、だ、だめ……。え。僕、僕、男なんだからあつ」

「らあくめ♥んむ……。んふふ、おちんちんは正直らよ？ ひゃつきから……。ふあふ、どこの女なれより、ボクのお口くちに出でしあがつてる」

ペニスの根元までやわな粘膜で包まれる快感に、睦月は最後の理性で叫ぶ。だがルシアは構わず、自身もズポンの前をしきりにまさぐりながら、口唇をぶつけ続けた。

「ひ……。っ！」

睦月の低い嗚咽おえんに、エンジュの甲高い引きつり声が重なる。ムチリとショーツ越しの双そ

臀<sup>でん</sup>が機手にかきわけられたのだ。おしりの谷間に風が通り――。

――プシュツッ！

「~~~~~……ツツ！」

最後の針が、お尻の穴の少しうえ、尾骨へ向けて打たれる。

粘膜を掠<sup>かす</sup>めた異物の触感に、少女は目を丸くしてピーンと背筋をそり返らせた。

「ひあ……っ、あ……っ！ ああアー……アー……っ！」

人形のように両手を吊るされたまま、悲喜どちらともつかない嬌声を放つエンジュ。全身を突つ張らせ、やがて背に乗るなにかをふりほどきたがるように四肢がうねった。

「つあ……っ！」

見ていた睦月も快感を爆発させ、ドクンドクンと脈を全体に伝えるよう腰を打ち振るう。吸いついたルシアは喉近くまで来た切っ先に、妖しく腿をこすりあわせながら、

「ンふあ……。あああ、来た……ア」

二人のそれよりよっぽど妖しいすすり泣きをこぼし、白濁のすべてを吸いあげていった。

☆

☆

「……ごちそおさま♥」

満足そうに湿った吐息をこぼし、股間から顔を離すルシア。



「恥ずかしいとこ見られたお返しに、いまから逆のことをするのよ」

デスクの角に腰かけたエンジュは、いつも通り口をへの字に噤むと、くいつと顎を突き出してみせた。高慢な下目使いに指図され、マキナがベッドに座る。

「あたしがその子の恥ずかしいところを見るの。アンタは小道具。あたしにしたのと同じことを、その子にしなさい」

「はあ!？」

思わず大きな声が出る睦月。

「な、なに言ってるの。そんなことしてなんの意味が……」

「やれ」

食ってかかろうとするのだが、一秒で一蹴いっしゅうされた。つい十五分前まで手の中で快樂に泣きじやくっていたのに……。凄まじい眼光に負けた睦月は、視線をそらしつつ、

「えっと、でも、できないよ、伊部草さんが怒る……」

「私は問題ない」

逃げ場を探したのだが、そこでは少女が、制服の前を開けているところだった。

「うわ」

睦月もエンジュも、揃ってふわりと開いたブレザーの中身にぎよつとしてしまう。

そういえばクラスのデリカシーがない女子代表、九里空沙耶が以前、体育の着替え時に

見たマキナのスタイルについて「結構ある」と言っていたのを思い出した。

結構。どころではない。かなり。いやとてつもない物量が、たふんとお目見えする。

「勝手に中に入った点に責任がある。償いはする」

躊躇なく後ろのホックも取ると、質量に押されたブラが飛ぶように落ちた。

「……着やせ……するのね」

自分が脱ぐよう仕向けたのに、意外すぎるサイズが現れて驚いたらしい。エンジンが照れた感じで頬を赤くする。自分のものと見比べてまたすぐ不機嫌な顔に戻ったが。

「ほら睦月。男ってこーゆーのウレシイんでしょ、役得じゃない」

行け。とばかり顎で指示してきた。

「ば、ばかり言わないでよ。そんな。いけないことだし。役得とか、そんな……」

——むにう……♡

☆

☆

(……わ、わ、すごい、ほんとに重い)

我ながら下衆げすすぎるという自己嫌悪は、食い込ませた指が、沼に沈むよう真つ白な肉へ埋没していく感動に、あつという間に消えた。

ずっしり来るくらいの質量。手のオイルは拭きとったはずなのに、シットリ吸いつくよ

うな肌ざわり。プリンかなにかのように柔らかいのに、あるところでバネでも入っているよう強烈に指をはじきたがる弾力。

サイズには格別こだわりのない睦月でさえ膚になる乳房だった。

肩幅は狭いのになめらかなにもりあがる、綺麗なおわん型をしている。触れてみると適度に溶けて柔らかく。それでいて瑞々しい反発も強かった。手のひらに収まりきらないのは同じだが、目算でハッキリ分かる。世間では豊満なそれに属するミカのそれよりさらにひと回り大きいだろう。身長は10センチ以上低いのに、である。

心地よすぎ重みに、なんだかこちらのほうが気持ちよくなってしまう。睦月は指を食い込ませたまま、大きく円を描くように、たっぶりの質量をまさぐり始めた。

「ンう……」

掴まれたときも含めて、ずっと無表情を通してきたマキナの顔が、一瞬だけピクリと眉を歪める。

それから、恥ずかしそうに頬が赤らんでいった。もともと肌はミルクでも溶かしこんだように真つ白なので、火照ってくるとよく分かる。

ベッドの上で正座した彼女に、睦月は正面から向かっている格好だ。少し目線をあげれば表情はすぐに覗けた。おそるおそる見つめて、目が合いそうになってすぐにそらす。

(伊部草さん……。伊部草マキナさんなんだ)

思うだけで頭が沸騰しそうだった。

春からずっと気になってきた憧れのクラスメイト。一度でいいから声をかけようとして、毎朝失敗してきた高嶺たかねの花。

そんな彼女の半裸を好き放題にしているのだから、無理もない。

(伊部草さんの胸をさわってる……)

ふるふると緊張から来る震えは、指を介して彼女の胸もぶるぶる波打たせる。

もう一度顔が見たいと視線を向けた。そういえば、席が隣で横顔はよく見えていても、正面から顔をあわせたことは滅多にない。ましてこんな距離は初めてだった。

「……………」

(……きれいだ)

彼女の魅力は、なんと言っても目つきだ。と睦月は思う。人形のように整った顔立ちもそうだけれど、いつも半目がちでとらえどころのない目つき。まっさらな氷の板に雫を一滴垂らしただけのような、限りなく透明な瞳。

春に初めて会ったときのよう、改めて一目惚れしてしまう。

吸い込まれそうに深い瞳……。

「隠れ巨乳かあ。つたく睦月のヤツ、あたしときよりずいぶん嬉しそ……。……あ」  
どこか納得いかなげに口をへの字にしていたエンジュが、目を丸くした。

睦月は、むしろそんな外野からの声でハツとなる。

(あれ……、僕、なにしてる?)

唇にぴったりと心地よい柔らかかみがあたっていた。……胸をすくように酸っぱくて、ほんのり甘い、リンゴの香りが鼻腔を撫でる。

鼻がぶつかるほど近くで、マキナがそつと目を閉じた。

「~~~~ふわっ！ ご、ゴメン伊部草さん！ そのっ、間違えた……」  
慌てて顔を離す。

思いがけず強い力で奪っていたのが、ちゅパツと音がしたので分かった。わきではエンジュが目を丸くしている。

胸を触るだけの約束だったのに……。少年が固まっていると、  
「……？」

マキナはむしろ、なぜやめたか分からないという顔で、  
「構わない」

ぴと……とこちらの口に指先をあてた。

「藤田君の唇……、不快じゃない」

空のように透明な、なにも映していない瞳で、まっすぐに見つめてくる。  
その奥にあるものが見えそうで、反射的に睦月も、指を彼女の口へあてていた。

お互いの口唇をいじりあう。

(伊部草さんの……、クチビル……)

「……あのっ」

見ていたエンジュがなにか言うより早く、二つの唇はぶつかりなおす。

勢いがついたせいと、正座していたマキナがとすと後ろにお尻をついた。少年は構わず後頭部に手を回して、引いた分を力強く抱き寄せ、キスを深める。

「ちよ、アンタたち……」

もう外野の声は届かなかった。

いい匂いのするピンクの外縁を、食<sup>は</sup>むようにして吸いとると、マキナはうっとりした感じで目を伏せなおす。そのまま、何年も前から恋人だったように、慣れた動作で両手を首に絡めてきた。まるで二人だけの世界を作りたがるように。

「伊部草さんの口、リンゴの匂いがする」

少し離れたあと、桜の花弁のような形状の口唇を舌でつつき、とろとろと唾液をまぶすよう舐めぬいた。少女は目を閉じたまま任せている。

「もっと食べたいな」

「……っは」

言葉は少なくても、すでに心まで通じ合っているよう、口を開いてくれる。

自分からするの初めてだ……。思いつつ、そつと舌を差しこんだ。

口腔は柔らかくて温かで、こじ入れた舌にすぐさま絡みついてくる、ほうじゆん豊潤な唾液が印象的だった。リンゴの匂いも……。ちよつとだけする。

(……伊部草さんの口、美味しい。……あ)

甘ったるい唾の匂いにクラクラしていると、底のほうで縮こまっている舌を見つけた。

軽くまさぐると、彼女はすぐ要望に気づき、求められるままそれを差し出してくれる。遠慮なく舐めとつた。舌下で潰れた空気がぷちゅりといやらしく鳴る。

(舌……ニユルニユルしてて可愛いな)

しばらくはネットリ舌をぶつけ合つて、彼女の口を味見させてもらう。それから、

(……えつと、確かこうやつて、……こう)

「ンふん……っ」

一歩進んだダイープキスに移つた。

先のほうをビブラートさせる感じで細かくつつき、不意打ちで根っこから一気に吸いとる。巧みな口唇愛撫に、マキナが思わずといった感じに鼻を鳴らした。

(感じてる。じゃあ次は……コレ)

今度はぺちやぺちやと根元のほうだけを集中的にくすぐる。それだけで少女は、閉じた



「瞼がピクつくぐらい眉を歪ませた。

だが本番はココから。ゆつくりと舐りを先のほうへ移していく。……と見せかけて、半分を越えたところで歯茎に移り、またくすぐるようつつき出した。

「ンあ……」

じれったげに鳴くマキナ。

たつぷり焦らしたあとで、ヌチウ……と全体を搦めとり、力強く啜ってやると、細い背筋が反応するほどだった。連動してたふんと上下する大きな乳房の先では、ピンク色の充血隆起が尖り立っていく。

どちらも以前ルシアにされたテクニクだった。男同士でも妖しくなってしまう舌使い。盗みきれたかは分からないが、少女の吐息が早まっているのは確かだ。

（次は……♪）

舌下に舌腹をあてがって、ゆるゆるしごくように。

こちらはミカに教えられたワザ。口腔でも一番くすぐったがりなソコは、一番気持ちいいツボだ。まさぐると性感帯を射抜かれた女性器のように大量の唾液が滴ってきた。

吸いとつて嚥下してみる。またほのかにリンゴ果汁の香りがした。

「……っ、……ふう……」

少女の反応は薄い。ネットネット口腔を愛撫されて、あふれた唾液を啜り吞まれても、表情

には嫌悪も羞恥も現れなかった。お人形のようなところは教室と同じだ。

けれど……。

「……藤田……くん」

薄く目を開けるマキナ。

ぼーっと目尻が火照り、氷のような瞳が、熱い涙で潤んでいた。

なにを言われたわけでもないのに、睦月はたっぷり吸いとった唾液のお返しを、柔らかい口腔へ流しこむ。

「……は……♡」

少女は当たり前前のことのように喉を鳴らし、送られるすべてを飲み下していった。

☆

☆

いつしか外からは、雨音にまじって遠雷の音が聞こえてくる。まだ夕方なのに、分厚い雲が空をふさぎ、電気のない室内はひどく薄暗かった。

睦月とマキナは、まだ溶かしあうかのように舌をかわしあっている。

「あの……、二人とも」

恥ずかしいのを誤魔化すため始めさせた、ほとんどお遊びだったことが、いつの間にか本格的な行為に変わり出している。エンジュはなんとか口を挟もうとするが、

この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**

# あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 本体690円(税込)



全国書店で  
好評  
発売中

「小説・高井村正 / 挿絵・或十せねが」

「カースイーター」  
呪詛喰らい師

セクシー退魔師が神様を  
ご奉仕で鎮める伝奇アクション!



全国書店で  
好評  
発売中

「小説・狩野景 / 挿絵・ぼち」

ピルグリムメイデンII 白装の騎士

不死者を滅ぼす白刃が舞い踊る!  
ちょっぴりマッドな聖女様が学園を舞台に大暴れ!!



「小説・羽沢向 / 挿絵・ピエール☆おじお」

魔海少女ルルイエ・ルル

2010 5月下旬  
発売予定!!

「魔法の天使ルルイエ・ルル!  
地球の未来はルルにおまかせよっ☆」

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 山梨学園戦姫ノブナガ!! ①~③
- 思春期なアダム ①~②
- 純情17歳少女探偵団 赤い探路を撃て!

- 借金お嬢クリス ①~②
- プリンセスリバー!! 交響する美神と魔境
- BLANGEL 絶になつて踊る悪者の夜

- 無敵の姫騎士が外-PMに目覚めたようです
- ピルグリムメイデン 深紅の巡礼聖女



# 仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたり、とんでもない方向に進んで——!?

小説●**斐芝嘉和**  
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で  
**好評  
発売中**

# 仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫〉景虎、宇佐美く奈々〉定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●**斐芝嘉和**  
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で  
**好評  
発売中**



**仙獄学艶戦姫ノブナガツ!**

信玄、出陣!

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された活性化物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**  
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で  
**好評**  
発売中

**BLANGEL**

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**  
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で  
**好評**  
発売中



## 思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ ごく普通な少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
**好評  
発売中**

## 思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！ “蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女＆美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
**好評  
発売中**



あとみっく文庫

既刊情報

借金お嬢  
クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で  
好評  
発売中借金お嬢  
クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で  
好評  
発売中詳しくはKTCの  
公式サイトで <http://ktcom.jp/>

# コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

## ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ



title:

## 発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉

# 電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

# キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- 雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- 二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
- ジャンル別**で作品も選べて超便利!
- 二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!